



伊奈頭美神社社叢

伊奈頭美神社は、松江市美保関町北浦にあり、一浦一社が原則と思われる中で、北浦西部の奈倉鼻に「伊奈頭美(いなづみ)神社」、東部の稲積(いなづみ)に「伊奈阿気神社」がある。白砂青松遠浅の入江は、ファミリーやカップルに人気の高いビーチで、ひと夏に3万人余りの賑わいがあり、また10軒余りある民宿では、年間を通して県内外の観光客が訪れている。

# 島根半島四十二浦巡り

第3号  
平成23年  
10月12日発行

題字/飯塚大幸一 畑葉師管長  
写真/飯塚 宏 撮影



空から見ていた浦々を訪ねて  
千家 統子

東京―出雲を飛行機で行き来すると、島根半島の浦々が見えるが、その美しさは何度見ても見飽きることはない。海からすぐ緑の山々が立ち上り、時折その緑と海との間に小さな集落が見える。晴れた日には、緑濃き山々が紺碧の海から抱き取ったような小さな湾と集落を護っているように見える。

数年前そんな集落のいくつかを訪ねる機会があった。春浅いころの昼下がりに、港に船は係留されていたが、どの集落でも人に出会うことがほとんどなかった。過疎化の問題もあるのだろうが、漁が終われば事務的な作業や、加工工場などに行ってしまうのだろうか。

数十年前までは浜辺で網を直したり、魚を干したり、子どもが走り回ったりして、一日中賑やかだったのだろうなと思いつつ、一日中賑やかだったのだらうなと思いつつ、集落にある神社を訪ねた。集落の規模から想像するより、大抵のお社が多いようだった。海という大自然を相手にする暮らしのよりのところだったのだろう。境内は清掃され大切にされている様子がうかがわれるもの、どこか寂しげであった。

過疎化がすすみ氏子さんも減っており、祭礼も人手が少なく何かと大変だと聞いた。それでも当日は賑やかに行われて、集落の人たちが集うそうだ。今度は、様々な願いと感謝をこめて行われる祭礼の、祈りと賑わいの浦々を訪ねてみたいと思つた。

海鳥と海を見ているゆるやかな時間を今日の賜物として

(歌人)



### 【島根半島四十二浦巡りについて】

島根半島に古来伝わる「四十二浦巡り」と呼ばれる海岸(浦)で汐汲みし神社を巡り歩く信仰習俗があります。この四十二浦巡りは、江戸時代盛んに行われていたということですが、いつ、何のために始まったのかは不明です。島根半島巡礼の終点は、一畑葉師とされています。



日時 /平成23年11月12日(土)  
午後2時~午後4時30分

会場 / 島根県民会館3F 大会議室

お問い合わせ 研究会事務局(木幡) TEL 090-4572-0641  
FAX 0852-21-9942  
kowata189@sky.megaegg.ne.jp

※ 聴講希望の方は、資料代として当日200円が必要です。  
聴講者は当日受付とし、先着180名までといたしますのでご了承ください。

講演 「汐汲みと塩の文化」

講師 関和彦氏 (島根県古代文化センター客員研究員)

「四十二浦巡りと江戸時代の観音巡礼」

講師 岡宏三氏 (島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員)

## 島根半島四十二浦巡り

再発見講演会  
「四十二浦巡りを考える」  
浦巡りに関わる「汐汲み」の文化と、四十二浦巡りが盛んだったと言われる江戸時代の「観音巡礼」の旅の心を考えてみませんか。

### 「鹿島町・島根町 浦巡りマップ」の刊行



この七月三十一日に開催した「鹿島・島根七浦巡りバスツアー」と「鹿島・島根町地域ガイド講座」の説明資料として、鹿島町・島根町の四十二浦巡りの浦々の案内地図「鹿島町・島根町 浦巡りマップ」を作成しました。マップには汐汲みにちなむイザナギのミソギ場所「身澄池」がある鹿島町の佐太神社をはじめ、島根町野井浦の爾佐加志能神社まで十四社を掲載しています。片面には、エッセイスト原美代子氏が作成された御津浦の御津神社から沖泊浦の津上神社までの七浦巡りのイラストマップをご覧いただけます。鹿島町には、食堂・民宿はありませんが、海産物・野菜などの常設売店「鹿島ふれあい館」、マーケット「みしまや」があり、弁当などの買い物ができます。「鹿島ふれあい館」のそばには、温泉「鹿島多久の湯」片浦の八幡宮付近には、「フリークライミング」場等レクリエーション施設があります。鹿島町御津浦から東に島根町大戸に入ると、「マリンシヨップしまね」があり、近年作り始めた地元産のイチヂク、イチヂクアイスクリーム等、鮮魚類の販売店、「お食事処 ひだまり」があります。また加賀港のマリンプラザには、四月から十月まで運行する「瀬戸遊覧船」、主に昼食用のお食事処「なぎさ」があります。また、加賀神社には、大総馬がおり船給馬などはともかくとして源平合戦図があるのは意外な感じがします。お願いして見せて頂くことも出来ます。マリンパーク多古鼻には、十五棟のキャンピングがあり、近くの民宿から食事まで運んで頂けるなど旅の途中に利用できます。キャンプサイトもあり、夏の朝まだき島根半島最北端の朝焼けは日本海に映えて絶景です。このマップは、研究会ホームページの他、鹿島町・島根町観光協会にお問い合わせください。

### 編集後記

広報誌3号は、四十二浦の旅に関わる原稿をお寄せ頂きました。本県出身で東京在住の千家統子(すまこ)氏に上から思いやる島根半島への熱い視線を届けて頂きました。昭和二十年代に四十二浦巡りを体験された小川幹雄氏からは、幼少期の回想をお寄せ頂き、当時四十二浦巡りに小波浦はなくて代わりに六坊(りくぼう)の神社を巡礼した等の話を伺っています。これから数回にわたって小川氏の戦後の我が国復興期に行われた四十二浦巡りに関する小川氏の戦後巡礼、宿泊等浦巡りの旅の様子を覚えて頂きたいと思つています。小川氏は、県立首智学校の教頭で退職され講師を務めておられます。現在島根県視覚障害者福祉協会会長も務めておられます。

写真の「美保関町万原の旧森山隧道」は、松江市美保関支所建設管理課で聞いて撮影しました。七歳の小川氏が祖母と歩かれたであろう森山隧道は昭和十六年の竣工となつており、すぐ近くに自動車交通用に幅広くなった「新森山トンネル」が昭和六十年に新築されています。来年二月十八日に予定している「平田七浦巡りバスツアー」の七浦巡り周辺の人気スポットは、「韓電神社」と言うことで、当研究会監事でもある飯塚宏氏に登壇記録を書いて頂きました。私もほの暗くなったこの神社を訪ねた帰り道三十代前後の女性二人が勢いよく歩いてくるのには驚き、「韓電神社」の人氣を垣間見ました。

この十一月十二日に上記のとおり「島根半島四十二浦巡り再発見講演会」を開催しますが、広報ボスタの女性の足元の石柱にある「アナオ」は、「シオアナ」とも言われ、松江藩が編纂した「雲陽誌」にも見られる名所です。小島への橋がない頃は、津上神社の下にほら穴があり、そこを歩いて海岸へ行き汐汲みをしたと聞きました。

県立図書館の一〇月の資料展示は、「日本の廻路、巡礼」がテーマで、四国廻路等巡礼にちなむ人物などの同館内の書籍類を集められ、手にとって見る事が出来ます。

(秋屋子)

### 島根半島四十二浦巡り第3号

発行 平成二十三年十月十二日  
発行者 島根半島四十二浦巡り再発見研究会  
〒六九一-〇〇七四 出雲市小境町八〇三 一畑寺内

ホームページ 島根半島四十二浦巡り <http://42ura.jp/>